

令和4年度F工房活動報告書

1. 学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の養成

1-1. 学ファシの人数

	学ファシ					合計
	4年次	3年次	2年次	継続	新規	
第12期	15名	24名	23名	27名	35名	62名
第13期	20名	17名	52名	34名	55名	89名

※翌年度の年次で記載

第13期学ファシ人数は、継続学ファシの継続率、新規学ファシの応募率ともに過去最高となり、第12期と比較して約1.4倍となった。これは、後述する研修内容の強化や学ファシの自主企画による意欲向上の後押しがあったためではないかと考えられる。

なお、第13期学ファシ89名のうち8名の学ファシが研修日程と授業のバッティングや他の活動との両立が困難となったことを理由に活動の辞退を申し出た。さらに7名は研修期間中に無断欠席をする等の理由により登録から除外する対応を取ったため、令和5年3月末日時点で74名の登録となっている（第12期活動期間の辞退者は5名であった）。

1-2. 第12期後半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生活（以下、「自己大」）」 授業運営支援	令和4年 4月～7月（全15回）	「自己大」は受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目である。 学ファシは、アイスブレイク運営や大学生生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「自己大」授業運営支援に伴う面談	令和4年 4月20日（水）～ 5月6日（金） 6月6日（月）～ 16日（木）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状態把握を目的に、各クラス2回の学ファシ面談を実施。	その他
3	「先輩の体験談」スピーチ対策：駆け込み寺	令和4年 4月13日（水）、14日（木）、20日（水）、21日（木）	「自己大」第3回授業で学ファシが話題提供する「先輩（学ファシ）の体験談」スピーチに対して不安があるという学ファシを対象に個別支援を実施。	その他
4	「自己大」 中間ふりかえりの会	令和4年 4月27日（水）、5月26日（木）	自分の/チームのこれまでのプロセス、現在地点を確認し、今後の方針を考えることを目的に実施。	研修

5	第13期新規学ファシ募集説明会の企画・運営	令和4年 6月上旬～7月下旬	第13期学ファシ募集説明会の企画・運営メンバーを募った。運営メンバーは、説明会に向け企画を検討した。	その他
6	ふりかえりの集い	令和4年 8月9日（火）	約1年の学ファシ活動を振り返り、学びや気づきを言語化することを目的に実施。	研修

※上記の他、学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画の取り組みが学ファシ自身によって多数行われた。

■取り組みの成果と課題

今年度、春学期授業は「自己大」を始めとする多くの科目が対面で実施され、学ファシの活動もそのほとんどの活動を対面で行うことができた。学ファシにとっては待望の対面での活動となり、第12期前半からの高いモチベーションを維持したまま春学期に移行することができた。詳細は下記である。

1) 「自己大」授業運営支援

第12期学ファシは、最高学年となる4年次生でさえ、オンラインでの授業運営しか体験していなかったため、対面の授業運営にあたり、対面ならではの対応（座席誘導や教室設備の活用等）に戸惑うのではないかと懸念された。しかし、事前研修において実際の授業と同様の条件でワークを体験する等の工夫を取り入れた結果、スムーズに授業運営できていた。面談時のヒアリングでは、授業当日のみならず、事前に教員・学ファシ間で密に意見交換を行う等、事前準備の段階でも事前研修の学びを活かして取り組んでいることがうかがえた。

「自己大」担当教員同士の情報交換会では、統括・副統括教員等から学ファシについて、「客観的にみて学ファシの成長度が従来より高いと感じられる」とのフィードバックがあった。

2) 「自己大」中間ふりかえりの会

授業運営に関する各クラスでの取り組みや工夫など、学ファシ同士の情報交換を目的に実施した。各自のやむを得ない事情により、「自己大」授業運営支援での学ファシ活動ができなかった学ファシ数名が、「場づくりメンバー」として会の運営を担当した。

「場づくりメンバー」の活動は、学ファシの「自己大」以外の実践の場を増やすため、今期初めての試験的な取り組みであったが、新規学ファシが多かったことや、職員主導の企画立案であったこと等から、学ファシの主体的な活動とまでは至らなかった。また、中間ふりかえりの会は授業時間帯の実施であったため、参加者となる学ファシも任意の参加にせざるを得なかった。これに伴い、参加者はごく少数ではあったが、少数ならではの深い対話が生まれ、参加者の満足度は高かった。

3) 学ファシによる自主企画

学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画が特に継続学ファシによって多数行われた。これは、継続者対象研修においてプログラムデザインの視点を伝える等、研修内容を強化した試みが実を結んだ結果であると言える。各イベントの詳細はキャンパスフラッシュ参照。

➤ 0ne ファシ

「学ファシについてもっと知りたい!」、 「秋からの学ファシ活動に参加するまでに何か

したい」という1年次生からの要望に応え、有志の学ファシが企画した。ワークを通して交流を楽しみながら、ファシリテーションについて簡単なレクチャーを受けられるプログラムであった。なお、第13期学ファシに応募した新規学ファシ54名のうち20名がこの企画に参加していた。

第1回（https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20220610_875_gakufashi.html）ほか

➤ えふかふえ ～モヤモヤを語ろう～ ジェンダー編

ジェンダー／セクシュアリティに対して関心の高い学ファシが、学ファシ内でもそれらについて理解や話題共有を進め、新たなファシリテーションの視点を身につけてほしいという思いで企画し、学ファシを対象にイベントを開催した。一部の回には教員も参加した。

（https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20220830_875_gakufashi.html）

➤ 学ファシ交流会

学ファシ同士の親睦を深めたいと考える有志の学ファシが企画・運営した。複数回開催し、自己紹介ワークやなぞなぞクイズなど、アイスブレイクワークを通して交流した。また、この場で体験したワークを「自己大」授業内のアイスブレイクに取り入れた学ファシもいた。

4) 第13期新規学ファシ募集説明会の企画運営

第12期活動者4名が企画・運営メンバーとして職員と共に募集活動を行った。募集説明会における学ファシ担当パートの企画・運営を担い、説明会では学ファシ活動の体験談をトークセッション形式で実施し、オンライン質問ツールを用いた質疑応答も運営メンバーが進行した。

■第12期の総括

学ファシへのヒアリングや教員からのフィードバックから、研修内容を強化したことが着実に実を結んでいることが感じられた。加えて、学ファシの自主企画が活発に実施されたことで、学ファシが自ら実践の場を増やし、活動を盛り上げていくことができた。その結果が、第13期の学ファシ人数増加につながったのではないかと引き続き、学ファシのチャレンジ意欲・主体的な取り組みを後押しすることで、自律的な学びの集団を目指したい。

1-3. 第13期前半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第13期 新規学ファシ募集 説明会	令和4年 7月19日（火）、21日 （木）、22日（金）	新規活動希望者を対象に、学ファシ活動の概要や応募方法等について説明。その後、学ファシ担当パートにおいて運営メンバーが学ファシ活動の体験談を学生目線から発表した。	説明会
2	新規学ファシ オリエンテーション	令和4年 10月6日（木）	学ファシ活動の概要や活動する上で必要なルール・注意点等を共有した。	研修
3	継続学ファシ研修	令和4年 10月8日（土）	研修の実施方法や注意点を共有するとともに、継続学ファシとしてステップアップすることを目指し、期待する姿を共有した。	研修

4	ファシリテーション 研修 【必須参加/全5回】	令和4年 10月22日(土)、11月 12日(土)、26日(土)、 12月10日(土) 令和5年 1月14日(土)	第13期学ファシ同士が関係性を構築すること、ファシリテータの基本的なマインド・スタンス・スキルを知る/体感することを目的に実施。一部、継続学ファシが企画・運営を担った。	研修
5	ファシリテーション に関するレクチャー &ワーク	令和4年11月～令和5年 3月(不定期開催)	学ファシの興味関心等に応じて、外部のファシリテータがレクチャー&ワークを学ファシ向けに開催した。	その他
6	京都文教大学プロジェクト科目とのコラボレーション企画	令和4年 12月10日(土)	京都文教大学プロジェクト科目受講生が学ファシに向けてワークショップを企画・実施。ワークショップ後には参加者全員でふりかえりを実施した。	その他
7	「自己大」事前研修	令和5年 2月7日(火)、3月27 日(月)、28日(火)	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、統括・副統括教員と協働しながら研修を実施した。 【研修内容】 ・チームビルディングに必要な対話の場をつくる方法の体験 ・多様な人と場を共有するための準備 ・学ファシが授業内で運営するプログラムの準備・練習	研修

■取り組みの成果と課題

学ファシ人数の増加に伴い、感染症対策を考慮しながらも全員が収容可能な会場の確保に苦慮した。一方で、学ファシが自ら活動の場をつくっていく仕組みづくりについては、徐々に成果が挙がっている。詳細は以下の通りである。

1) ファシリテーション研修

「ファシリテータとしての基本的なスタンス・マインド・スキルを体験的に知る」、「学ファシ同士の関係性構築」を目的として、研修を実施した。今期は特に、学ファシ1人1人が活動をより自分ごととして考えられる工夫として、研修のなかで「自分たちがより心地よく活動するためにはどうしたらよいか」を考える機会をつくり、学ファシが自ら活動の場をつくっていくよう意識づけた。

加えて、第12期同様、サポーターとして参画した4年次生の学ファシからの意見を全面的に取り入れ、4年次生自身にも積極的に運営を担ってもらった。4年次生の意見を取り入れることで、学ファシにとって研修内容がより理解しやすいものとなった。また、4年次生に研修を運営してもらうことで、自身が受講した「自己大」クラス以外の学ファシのワーク運営のロールモデルを知ることができた。同時に、4年次生にとってもファシリテータとしてのチャレンジの場となり、その姿を見た学ファシのチャレンジ意欲の後押しとなった。その証左として、研修プログラムの立案・運営に関心を抱く学ファシも増え、毎回の研修後に行うふりかえりで

は、多くの学ファシが参加した。

また、研修には4年次生サポーター6名の他、F工房職員4名、外部ファシリテータ4名が携わり、計14名のチームで運営した。これにより、学ファシは、「自己大」だけではない多様な場のファシリテーションならびにファシリテータのあり方、チームでの協働について知ることができた。詳細はキャンパスフラッシュ参照。

第13期活動始動 (https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20221022_875_gakufashi.html)

学ファシが企画・運営 (https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20221126_875_gakufashi.html)

2) 外部委託によるファシリテーション研修のサポート効果

第12期と同様に職員の業務負担軽減や学ファシ増員を目的に、外部委託によるF工房職員に対するコンサルティングや「ファシリテーションに関するレクチャー&ワーク」、研修における企画・運営のサポート等を依頼した。

第12期と同じ外部ファシリテータが関わることで、継続学ファシとは信頼関係が構築された分、学ファシが自分自身のファシリテーションにおける課題や疑問、チャレンジしたいこと等を打ち明けて関わりにくることが増えた。特に、研修サポーターとして活動に参画した4年次生の中には「外部ファシリテータとの協働を体験したい」という声もあり、前述した4年次生にとってもチャレンジとなる研修づくりへつながった。これにより、F工房職員・外部ファシリテータ側も、4年次生本人の意欲に沿いつつ、より本人の個人的な本質に触れる密な関わりやフィードバックをすることができた。その様子から、他の継続学ファシや新規学ファシも刺激を受け、同じようにチャレンジしたいという意欲を後押ししていた。

また、付随的な関わりとして、就職活動がスタートした3年次生より「学ファシ活動を就職活動にも活かすにはどうしたらよいか」「ファシリテーションが活かされる業界や業種を教えてください」等、社会とファシリテーションの接続を意識した相談が寄せられた。外部ファシリテータは、自身の職歴や経験等を活かしながら個別で相談に応じた。

このように、第13期では外部ファシリテータ側が予め用意したプログラムよりも、より学ファシ個人のニーズ等に合わせた多様な関わりが増えた。それにより学ファシ個人が自分自身の課題解決をするために学ファシ活動に取り組むようになり、結果として学ファシ活動への意欲を高めることにつながっていた。

3) 京都文教大学プロジェクト科目とのコラボレーション企画

昨年度に引き続き、京都文教大学「プロジェクト科目IB【対話を促すワークショップの運営クラス】」の担当教員（本学卒業生、元学ファシ）よりF工房にご連絡いただき、コラボレーション企画を開催した。詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20221210_875_gakufashi.html)

■第13期前半の総括

人数の都合上、研修会場を二つに分けることを余儀なくされたことから、学ファシ同士の関係性構築は、第12期に比べるとやや希薄であると言わざるを得ない。加えて、春学期に至るまでに活動を断念する学ファシもいた。一方で、学ファシ全体としては高いモチベーションを維持しており、チャレンジ意欲のある学ファシが増加している。今後、意欲ある学ファシを巻き込みながら、活動を盛り上げる仕組みづくりや工夫を考えたい。

2. FDに関する取り組み

2-1. 授業の見学

公開授業&ワークショップ：なし

授業形態の変化等の影響もあり、授業見学の実施を見送った。

2-2. 教育支援研究開発センター主催研修会

「全学FD/SD研修会」、「しゃべり場」：F工房のプログラム参画なし

3. コンサルティング

■依頼件数：5件（のべ8回）

≪プログラム種類別の内訳≫

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	2
授業の支援	3
課外活動の支援	0

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

≪支援内容別の内訳≫

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援 (コンテンツ運営)	8
見学・フィードバック	0
ワークショップ・授業の設計支援 (助言・情報提供)	0
学ファシ派遣	8

※依頼1件に対し複数の支援を同時に実施する場合がある
ためのべ回数を記載(事前打ち合わせ・ふりかえりは除く)

※「自己大」は授業期間中、学ファシの派遣を
通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづらい
ことから1回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

1) 研究室の新分属生歓迎会

生命科学部教員からの依頼で、研究室に新分属となった3年次生を4年次生・院生が歓迎する交流イベントにおいて、担当学生とともに学ファシがアイスブレイクやゲームの進行を担当した。当日は非常にスムーズに運営され、研究室に所属する学生同士の相互理解がすすみ、親しみが増し、先輩・後輩の会話や同級生同士の会話が増えたようである。課題として、依頼日から歓迎会当日までの準備期間が短かったことから、打ち合わせの回数や時間が十分ではなかったため、研究室の担当学生と学ファシ間で意思疎通が上手く行われなかったことが挙げられる。短期間でも双方の想いをきちんと共有し、合意形成を図れるようにしたい。

2) 葵寮 新班長研修会

2019年度以来2年ぶりに学生部より依頼があり協働して研修を行った。この研修は、葵寮の新班長となる学生たちの成長、ひいては寮生活・寮運営の質的向上を果たすことを目的に実施されている。

過年度はF工房職員が研修の進行を担っていたが、今年度は新たな試みとして、有志の学ファシ4名が研修の進行と、グループワークのサポートを担った。詳細はキャンパスフラッシュ

参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20230314_875_gakufashi.html)

■コンサルティング業務の総括

依頼件数は5件（のべ8回）であった。コロナ禍以前の依頼件数と比較するとまだ元の状態ではないものの、次年度春学期の授業に向けた新規の相談が入るなど新たな動きもあった。

また、今年度は依頼のあったコンサルティング案件に積極的に学ファシとの協働を取り入れた。これは、「自己大」授業運営支援以外の実践の機会を創出することのみならず、依頼先で出会うことになる学生たちに学ファシが関わることで、学生同士の相乗効果を狙うことも意図している。参画した学ファシは、当日の関わりだけでなく、F工房職員と一緒に事前打ち合わせにも同席し、依頼者のニーズや前提条件等を踏まえながら、プログラムデザインの面において学生の視点から積極的に意見を述べる等、職員の期待以上の活躍も見られた。

4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣：実施なし

4-2. 学外での発表

大学コンソーシアム京都第28回FDフォーラム ポスターセッション発表（オンライン開催）

□日時：2023年2月18日（土）13:00～16:00

□発表テーマ等

- 「学生ファシリテータが初年次生向けキャリア教育プログラム受講生にもたらすものと理想的な受講生支援のあり方」
- 参加者：学ファシ3名、F工房職員2名
- 「京都文教大学ワークショップの企画と運営を通じた大学間交流の取り組み—京都文教大学と京都産業大学の学生交流プログラム—」
- 参加者：学ファシ3名、F工房職員2名

□成果

今年度は、継続学ファシ1名、新規学ファシ2名の学ファシがチームとなって本発表に挑戦した。発表に至るまでの過程では、付箋や模造紙を活用して可視化を徹底する等、研修で体験してきた方法を活かし、主体的に話し合うことができていた。丁寧に合意形成を図っていた様子は、非常に頼もしく、改めて称賛したい点である。

また、「調査対象者に偏りがある」などの参加者から指摘は発表学ファシたちにとってよい刺激になったと思われる。今回発表した学ファシの動機の一つが「学部で学んだ調査方法を試してみたい」だったためである。今後、卒業論文などに活かされるだろう。

□課題

成果物作成の際は、一部のメンバーに負担が偏る様子が見られた。成果物作成に移る期間は、年末年始休暇が入ることに加えて、学ファシらは定期試験やレポート課題に追われ、スケジュール調整や役割分担に苦慮する様子が毎年見られる。また、職員側も次年度に向けた打ち合わせ等が立て込み、サポートに入りづらい時期でもある。今後の取り組みの課題として、早い段階から成果物作成に向けサポートする等、対策を考えたい。

以上

【別紙】令和4年度 F工房によるコンサルティング実績：プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働 (2件) [前年度実績：2件]

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1 4/4	導入教育プログラム「自己の探求プログラム」 (2022年度入学生対象)	理学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け研修の運営
2 2/14,15	葵寮 新班長研修会	学生部(寮務担当)	2			○	教育寮班長が寮の将来像を共有し、新年度の目標および具体的な行動計画を策定するためのワークショップの設計および当日の運営支援

2) 授業の支援 (3件) [前年度実績：1件]

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1 4/8~7/22	自己発見と大学生活	初年次教育センター	30クラス ×15回			○	全30クラス、15コマへの学ファン派遣、学ファン向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月~7月)における学ファンの活動支援

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
2 11/25,12/2, .12/9	演習2	経営学部	3			○	担当教員の提示した内容に沿って、学ファンがプログラム内容の提案と当日の運営、グループワークのサポートを担当
3 10/17	研究室の新分属生歓迎会	生命科学部	1			○	研究室に新分属となった3年次生を4年次生・院生が歓迎する交流イベントにおいて、先輩学生とともに学ファンがアイスブレイクやゲームの進行を担当

3) 課外活動の支援 (0件) [前年度実績：0件]